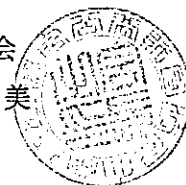


大基委大評第8号
平成27年4月17日

熊本県立大学
学長 古賀 実 殿

公益財団法人 大学基準協会
会長 納 谷 廣 美



貴大学の「改善報告書」の検討結果について（通知）

標記に関し、本年度、貴大学よりご提出頂きました「改善報告書」につきまして、大学評価委員会において慎重に審議を行い、別紙の通り検討結果をとりまとめましたので、ここにご通知申し上げます。

添付資料 「改善報告書検討結果（熊本県立大学）」

以 上

〈 改善報告書検討結果（熊本県立大学） 〉

[1] 概評

2010（平成 22）年度の本協会による大学評価に際し、問題点の指摘に関する助言として 4 点の改善報告を求めた。今回提出された改善報告書からは、これらの助言を真摯に受け止め、意欲的に改善に取り組んでいることが確認できる。

ただし、次に述べる取り組みの成果が十分に表れていない事項については、引き続き一層の努力が望まれる。

教育内容・方法について、1 年間に履修登録できる単位数の上限が全学部で設定されていなかった問題に関し、文学部の 1～3 年次以外ではいまだ設定されていないので、単位制度の趣旨に照らして、改善が望まれる。

教員組織については、専任教員の年齢構成が偏っていた点に関し、年齢構成比率としては、文学部で 41～50 歳代が 36.0%、総合管理学部で 51～60 歳代が 32.4%と依然として高いので、改善が望まれる。

[2] 今後の改善経過について再度報告を求める事項

なし

以 上